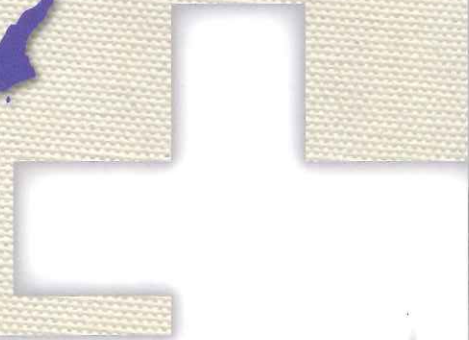


ひょうごの 赤十字



2017.2月
February



特集

阪神・淡路大震災を、忘れない



「自分ゴト」ととらえ自分たちができることを考えるために
「第34回海外たすけあい」にご協力ありがとうございました
大規模災害時の診療や搬送、連携を確認
森本看護部長が「平成28年度兵庫県看護功績賞」を受賞
講習のさらなる充実を目指して
講習のご案内

 日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号



078-241-9889



赤十字 兵庫

検索



阪神・淡路大震災を、忘れない

尊い多くのいのちが犠牲となった阪神・淡路大震災から22年を迎えた1月17日。

今年も県内各地で、犠牲になった方々を追悼する行事や経験・教訓を次世代へ引き継ぐ催しが開かれ、兵庫県支部は、神戸市中央区で開催された「ひょうご安全の日1.17のつどい」に参加協力しました。

当時を思い起こしながら緊急時の避難路などを歩く「1.17ひょうごメモリアルウォーク」の休憩地点となった支部社屋では、赤十字防災ボランティアの皆さんと温かいみそ汁約1,000食を提供した他、阪神・淡路大震災をはじめ東日本大震災、平成28年熊本地震における兵庫県支部の災害救護活動をパネル展示で紹介しました。

復興した街並みを歩いてこられた参加者の中には、当時の被災状況や復興過程などを涙しながら話して下さる方もおられました。



防災啓発や東北・熊本・鳥取の復興を願うイベントが催された「交流ひろば」では、災害時に素早く対応できるよう訓練も兼ね、兵庫県赤十字奉仕団の皆さんが野菜たっぷりの豚汁約600食を炊き出し、「赤十字まごころサービス」として来場者に提供しました。

このイベントでの炊き出しに初参加の奉仕団員の方は、「あの時間内での完成は難しいと思っていたが、いろいろと工夫されていることがわかり参考になりました。今後の活動に生かしていきたいです」と話されていました。

この他、防災訓練への参加や心肺蘇生とAEDの使い方体験イベントなども行い、来場者の皆さんが災害に備える意識を新たにす機会としていただきました。

阪神・淡路大震災を契機に災害時のさまざまな活動が大きく変わり、その後の災害ではより多くのいのちを救うための迅速な活動が展開されるようになってきています。「災害からいのちを守る日本赤十字社」として、県民の皆さまの安全安心のために、これからも積極的な活動に取り組んでまいります。



「自分ゴト」ととらえ自分たちができることを考えるために

青少年赤十字

～青少年赤十字提供プログラム～

兵庫県支部では、「いのちを大切に、他者を思いやることのできる青少年を育てる」という青少年赤十字の目的を達成するため、職員やノウハウを持った赤十字ボランティアなどが青少年赤十字加盟校に出向き、健康、福祉、国際理解、防災などのテーマに基づいて講演や体験講習を行う「提供プログラム」に取り組んでおり、年間約100校(延べ)で活用いただいています。

11月2日には伊丹市立天王寺川中学校1・2年生約540人を対象に防災教育プログラムが行われ、当支部の上り口事務局次長が「地震災害と赤十字～熊本、東日本、阪神・淡路に学ぶ～」と題し講演。

災害の教訓を自身の生活に置き換えて、自分たちができることを考えるきっかけとしていただけたようです。





国際活動

「第34回海外たすけあい」にご協力ありがとうございました

いま世界で紛争や自然災害、飢餓、病気などで命の危機に直面している人びとを救うため、日本赤十字社は毎年12月にNHKと共同で募金キャンペーン「海外たすけあい」に取り組んでいます。当支部では今年度も兵庫県赤十字奉仕団や日赤有功会の皆さまをはじめ、県内主要駅での街頭募金などを通じて多くの方々からご協力いただきました。お寄せいただいた募金は、中東シリアや南スーダンなどの紛争で苦しむ人々への支援、

ネパールをはじめ世界各地で相次ぐ災害で苦しむ人々への支援、コレラなどの病気から身を守るための支援に役立てられます。

ご協力いただきました皆さまに心よりお礼申し上げます。



街頭募金の様子



兵庫県赤十字奉仕団からの寄付金を
井戸支部長へ手渡す北野美智子委員長(左)

ご協力いただいた募金のご報告

兵庫県赤十字奉仕団	1,152,000円	地区・分区、その他	343,025円
兵庫県日赤有功会	4,054,631円	NHK	169,265円
特別赤十字奉仕団	256,500円	街頭募金	223,443円
青少年赤十字加盟校	126,893円	兵庫県支部・施設	489,007円
合計		6,814,764円	



国内災害救護

大規模災害時の診療や搬送、連携を確認

～平成28年度近畿DMATブロック訓練及び災害拠点病院研修～

12月17日、山崎断層帯を震源とする震度7の地震が発生したとの想定で、災害時の迅速な救護活動や負傷者の被災地外への広域搬送など、近畿2府4県の災害派遣医療チーム(DMAT)による合同訓練が県内各地を会場に行われました。今回の訓練には、神戸・姫路赤十字病院と兵庫県災害医療センターのDMATに加え、初めて兵庫県赤十字血液センターが参加。災害時におけるDMATと連携した血液製剤の受注・供給の手順などを確認しました。また同時に、この訓練と連動した災害拠点病院研修を、姫路赤十字病院を会場に行いました。

この研修には、病院職員をはじめ県内赤十字病院の医療救護班、負傷者役としてご協力いただいた下手野自治会の皆さんなど約300人が参加。

運ばれてくる負傷者数や負傷の程度も知らされない実践型研修のため、人手不足となる部署や通信機器トラブルなどで混乱する場面もありましたが、課題を発見することもできました。実際の災害現場にはシナリオはありません。災害拠点病院として臨機応変に対応できるよう、今後も訓練・研修を重ねてまいります。



災害拠点病院研修で、
負傷者が次々と運び込まれる病院ロビー



広域搬送医療施設(SCU)に
血液製剤を届ける血液センターの職員

いのちと健康を守る赤十字活動は、
皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています

活動資金にご協力をお願いします



**平成28年度
新たな災害救護支援センターを整備!!**
大規模災害に備え、全国各地の被災地への支援や全国からの受援の拠点となる施設の整備を計画しています。(場所:三木市)

郵便局・ゆうちょ銀行からもご協力いただけます



口座記号番号：01110-0-1136

口座加入者名：日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取扱いの場合、振込手数料は無料です。



森本看護部長が「平成28年度兵庫県看護功績賞」を受賞

～多可赤十字病院～

10月31日、多可赤十字病院の森本敦子看護部長が、県内の病院や福祉施設、学校などで長年働き、看護業務・保健指導業務に特に貢献した者に贈られる「平成28年度兵庫県看護功績賞」を受賞しました。森本看護部長の喜びの声ををご紹介します。

「当院の看護師は、先駆的に地域包括ケアに取り組んできた松浦院長の「地域づくり」の考えを実践に移し、院内の職員はもちろんのこと、町内で勤務されている方々や行政職員の方々とネットワークを構築し、協議会を立ち上げ地域包括ケア体制の構築に取り組んできました。高齢化社会到来に向け、医療だけでなく、介護や福祉が連携し、地域住民と共に安心して住み続けることができる町づくりに取り組んでいる看護が認められ、大変光栄に思います。これからも生活と医療を支える看護の資質の向上をめざし、努力します。」



井戸兵庫県知事から表彰される森本看護部長



講習のさらなる充実を目指して

～第4ブロック赤十字健康生活支援講習指導員研修会～

12月13日、大阪府支部にて、近畿2府4県の赤十字健康生活支援講習の指導員を対象とした研修会が開催され、兵庫県支部から10人が参加しました。

講習で実施するグループワークの上手な進め方や、健康寿命と寿命の差を少なくするために必要な栄養・運動・予防ケアの考え方、熊本地震の時にこころのケアと共に講習内容から役に立つ技術を提供した体験報告などを学びました。また、講義だけでなく、運動と認知課題を組み合わせた認知症予防の「コグニサイズ」を体験するなど知識と共に技術も磨くことができました。

習得した知識や技術を今後の健康生活支援講習で皆さまにお伝えしてまいりますので、ぜひお申し込みください。お待ちしております。



講習のご案内

科目別講習 講習の一部のテーマを短時間で習得できます。

健康
生活支援

認知症高齢者への対応
3/25[±] 10:00～12:00

健康
生活支援

リラクゼーション・癒しのハンドケア
3/25[±] 13:00～15:00

◇申込期日は開催日(初日)の1カ月前までです。 ◇会場は日本赤十字社兵庫県支部です。

お問い合わせは、お電話またはホームページで ☎ 078-241-1499 (講習係)

救急法ミニ講習会イベントを開催しました

1月14日(土)、イオンモール伊丹昆陽(伊丹市)にて、救急法ミニ講習会イベントを開催。62人の方々に心肺蘇生と自動体外式除細動器(AED)の使い方を体験いただきました。

